

あかね



令和5年11月9日(木)発行
薩摩川内市立川内北中学校

自主 友愛 奉仕 鍛錬

文責：校長 感王寺 等

やったほうが数倍楽しい

先日5日(日)は、川内はんや祭りでした。コロナ禍で4年ぶりの開催、たくさんの人出で賑わいました。本校からも数名の先生方が、「ワールドカップ」の名称で参加する予定でしたので応援に行きましたが、人数が少なかったもので急きょ飛び入りで総踊りに参加しました。前で踊る小学生をお手本にしながらでしたが、とても楽しい2時間となりました。やはり物事は、見るよりも参加したほうが楽しいものです。また、来年も参加したなあと感じました。



さて、来週の17日(金)には後期生徒総会が実施されます。それに伴い学級生徒会も後期体制になります。各学級で新しい一人一役を担うこととなりますが、嫌々その仕事をするのではなく、自ら進んで取り組むことで、得るものがあるのではないのでしょうか。

【11月の一事徹底】 「係活動 一人一役の徹底」

その意味で11月の一事徹底は設定されています。後期学級組織を決める中で、自分の役割を自覚し、学級みんなのためにと、お互い協働できる後期学級組織をつくってほしいものです。新生徒会役員のみなさんが、先輩から活動の引き継ぎを頑張っているように。

新チームの目標は

10月24日(火)、25日(水)の両日、市内各会場において、地区新人戦が開催されました。本校からも13競技に出場しましたが、インフルエンザ等で主力メンバーを欠き、厳しい戦いとなった競技もあったようです。試合の結果は、次の通り。

【団体の部】

優勝 女子庭球2年A
男子庭球1年A
女子卓球Ⅱ部B

準優勝 男子バレー

女子バレー

女子ソフト

剣道男子

女子庭球1年A

女子卓球Ⅰ部A

女子卓球Ⅱ部C

3位 男子庭球2年A

卓球男子1部A 男子バスケ 女子バスケ



5位 サッカー
柔道男子
その他 野球初戦敗
【個人の部】

1位 男子庭球1年
堂前・廣瀬ペア

2位 剣道男子 坂元 野畑
女子庭球 横尾・坂元ペア

3位 剣道女子 藤園
女子庭球 小濱・飛松ペア

修学旅行の翌週に開催された大会であり、調整が不十分であったかもしれませんが、勝負事は結果が全てです。今大会の結果をもとに、新チームの今の力量を知り、目標を定め、今後の練習に生かし、来年6月の地区総体へ向け頑張ってもらいたいものです。練習は試合の気持ちで厳しく、試合は練習の気持ちで楽しく。



吹奏楽部定期演奏会

11月4日(土)、SSプラザさんだいにおいて、本校吹奏楽部の第25回定期演奏会を実施しました。当日は、多くの吹奏楽部OBやOG、Armonioso吹奏楽団の賛助演奏もあり、多くの観衆を前に迫力ある音色を披露しました。特に、先日の日本管楽合奏コンクールで発表した曲や、今月19日の全日本マーチングコンテストで演奏する曲は完成度も高く、観衆も聞き入っていました。



演奏会の休憩時には、ある卒業生が私の座席まで来られ、次のように話されました。「私は、昭和40年卒の北中生です。当時は、みんな中学卒業後には就職列車で他所に出て一生懸命働きました。今日は、とってもいい演奏を聞かせてもらって、幸せでした。後輩たちがこんなに頑張っていることが、何よりもうれしいです。」

大先輩のお話をお聞きし、とても心が温くなりました。私たちの知らないところで、北中生を応援してくださっている方々がいることを、私たちは忘れてはいけないと感じました。部活動だけではなく、日常生活でもその気概をもって行動してほしいものです。

定期テスト前の部活停止期間、何をすべきか分かっているはず。

市中学校英語発表会

先月の27日(金)、国際交流センターにおいて、薩摩川内市中学校英語発表会・トピックトークコンテストが開催され、本校からも、3年の佐々木結愛さん、堂脇美羽さん、原禾凜さんが本校代表として出場し、優良賞に輝きました。今回のテーマは、my friendでしたが、それぞれの考える友達について思いを英語で発表しました。発表会後の審査員の講評を次に掲載しますので、来年挑戦しようと思っている人は、参考にしてください。

市 中学校英語発表会
Junior High School Spe



【審査員の講評】

昨年より全体的にレベルが上がった。小学校でスタートした英語学習が、中学校で伸びているのを感じる。My friendの題でプレゼンしたが、内容だけでなく英語の使い方も大事である。

英語のイントネーション、滑らかさ、感情をこめて発表するなど、大切にしてほしい。プレゼン後の審査員との英語のやり取りは、即興性が必要であり、英語を身に付け、すぐ返せるようになることが必要です。日常の中で、どんな場面で、どんな英語を使うのか、思考・判断・表現する力をこれからも益々伸ばしてください。

第3回学校運営協議会

先週2日(木)に、今回は県民週間の意義も兼ね、亀山小・可愛小・育英小校区の学校運営協議会の方々をお招きし、第3回学校運営協議会を実施しました。当日は、授業参観後に今年度の教育活動の様子を説明し、意見交換では次のような意見が出ました。



- ・ 地域で中学生がよく挨拶してくれて、我が家の祖母も喜んでいる。
- ・ 小中学生に声かけすると不審者扱いされ、地域の安全見守り隊もやりづらさがある。
- ・ 地域やPTAも何もしないことが良いという雰囲気があるが、本当にそれでいいのか。
- ・ 保育園に通う頃からスマホに子守りをさせる時代、将来的にスマホの影響が心配だ。
- ・ ALTと一緒に活動している英語の授業は、明るい雰囲気を楽しそうであった。

今後とも、よろしくお願いいたします。

SNSによる誘い出し

① 辛いことが続き、SNSにつぶやいていたAさん。気持ちが落ち着くメッセージをくれる人に出会い、DMでやりとりするうちに、会いに行くことになりました。

※ DM(ダイレクトメッセージ)：複数の人たちとやりとりする場でのメッセージでなく、個人同士が直接やりとりできるメッセージ機能です。

② Aさんは出かけたきり家に帰ってこなくなり、家族が警察に相談。誰にも言わずに会いに行ったことは、AさんのSNSの記録を確認して初めてわかったのです。

こんな事例のように、未成年者が被害にあう事件が全国で発生しています。ネットだけの交流では、顔、姿、気持ち、メッセージ、どれも本物かどうかわかりません。それなのになぜ、ネットで知り合った人を信じたり頼りにしたりしてしまうのでしょうか。どうすればよいのか、考えてみましょう。

○ 知らない人のほうが便利?

自分を直接知っている人と、ネットだけでやりとりしている人。優しい言葉をかけられて嬉しいのはどっちでしょう。ネットなら余計な詮索をされずに済みますが、都合がいいだけではないでしょうか。

○ どうしてもSNSを使うなら

中には本当に親身になってくれる人もいますが、上辺だけの人も山ほどいます。ましては人をだます人もいます。どうしてもSNSに頼りたいなら、「深入りしない」ことや、「DMを警戒し、個人的なやりとりはしない」ことを徹底しましょう。

○ 親身になってくれる人に

- ・ 気持ちを察してくれる友人
- ・ じっくり話を聞いてくれる家族
- ・ いつも相談にのってくれる先生など

知られたくない、心配をかけたくないと思っても一番安全な身近な人に話をしてみましょう。きっと力になってくれる人が身近にいるはずです。

感情の行き違いが起こり、辛さやイラ立ち、「大人はわかってくれない!」など、リアルな生活で受けたストレスをネットにぶつけることで自分の気持ちをコントロールしようとする人も少なくありません。でも、そんな心理状態や判断の甘さを知って、近づいてくる危険な大人もいます。ネットで知り合った人に深入りしないよう「ここまで!」の限界を話し合い、意識して使うことが危険回避の第一歩です。(総務省 インターネットトラブル事例集より)



いい歯にっこり北中週間、治療報告の提出を!